

政務活動費活動報告（研修）

(1) 研修名：

全国図書館大会東京大会

(2) 参加者：

赤井 康彦

(3) 日時・場所：

平成 26 年 10 月 31 日～11 月 1 日

明治大学駿河台キャンパス アカデミーホール

【1. 研修目的】

わが市においては、市立図書館が北部に位置し、第2図書館ともいえる中央図書館の建設は市長公約の一つにもなっている。建設場所や予算、形態等様々な事の議論が必要であるが場所の選定や建設、運営に至るまでには時間がかかり、その間も北部の市立図書館は従来通り運営されるが開かれた図書館や身近に感じる図書館に進歩しなければならない。

全国図書館大会では、全国各地の図書館活動の講演やパネルディスカッションを通して様々な事例を聞くことによりわが市において活用できる事例のヒントになると考え参加した。

【2. 結果報告】

(1) 内 容

10月31日

記念フォーラム 図書館文化を明日の力に

＝言葉を育てる・社会をつなげる・未来を創る＝

パネリスト	山根基世	(元NHKアナウンサー)
	松浦弥太郎	(BACH代表)
	幅 允孝	(暮らしの手帖編集長)
	森 茜	(日本図書館協会理事長)
コーディネーター	町永俊雄	(元NHKキャスター)

11月1日

分科会 公共図書館

基調報告 本の力 図書館の力

船崎 尚 (元武蔵野市立図書館長)

基調報告 図書館の設置及び運営上の望ましい基準をどう活用するか

(2) 考 察

一日目の記念フォーラムでは、様々な分野のパネリストの意見と合間に流された各地の取組に大変興味を持って聞くことが出来ました。

図書館員のお仕事は、本をきれいに並べる事ではなく実際本を手にとって読んでもらうよう活動する事や問題解決の為に専門書を並べるだけでなくノウハウを持った人とつなげることがこれから必要であると感じました。

また、札幌市で行われたブラインドブックマーケットの取組を映像で流され、本の表紙をカバーし、読者が記した感想や思いだけを頼りに自分の興味を持った本を探すイベントは是非わが市でもやってもらいたいと思いました。またその中で本は人と同じであり、友達を人に紹介するようなものという言葉に感銘を受けました。

他にも恵庭市では、まるごと図書館事業として市内各地のお店などで小さな図書館として開放し交流していたり、ブックスタートを14年前から始めて読み聞かせと子ども自身がページを付け加えるというイベントを行っており、自分の中で新たな物語を作り、本に興味をわいてくる気持ちが芽生えるよう仕向けている。

また、パネリストからは、読み聞かせという使役動詞でなく、読み語りという言葉を使う提案をされ、柳田邦男は、語るとは関わるという事だと表現されていることから読み語りとしたいという意見には大いに賛成するものである。

最後に本を人と考えるととても楽しい人生になる。一目ぼれもあるし、どうも合わない本もある。専門的な事を学ぶだけでなく、心の使い方を学ぶ場所でもある。しかし、本から離れて久しい人はたくさんおり、こうした人たちにどう働きかけるか？ どう戦略的に行動していくかが図書館の今後の未来を左右すると感じた。

2日目には、古代の巻物がやがて綴じられめくる本に変わったように今日の本も電子書籍に変わるかもしれないが、それでも本は残るだろうと信じ願う元図書館長のお話の中で、同じ作者の本でも旧版と新版で全く違う事もあるという話は初耳でした。何年もの間に戦争や人権などが関わり旧版と新版が違うものもあり、両方揃っている事が望ましいとの事であった。また、レファレンスをしていた時、奈良の大仏の頭のぶつぶつは何個あるかとの質問を受け、少しの教養でブツブツが羅刹という名前である事を知っていたことから仏教書や専門書、教典などを調べたが全く出てこなかった。しかし、児童書コーナーに行ったらものの数分で見付き解決した。という話を聞き幅広い知識と柔らかな頭も必要であると感じました。

次に平成24年に図書館の設置及び運営上の望ましい基準が施行されその中身についての説明を聞いた。今回施行された基準についてわが市では満たされていない基準がいくつもあると感じ、機会を見つけ質問してまいりたいと思う。

最後に議員としてこの大会に参加している者は、非常に少なく図書館司書や関係者などがほとんどらしい中でフォーラムや分科会なので専門的な話になる事もありましたが、図書館職員の意識を変えることがとても必要であると2日間を通し感じました。

魅力ある図書館にするため本を通し人と人をつなぐような事業に打って出る彦根図書館になるように願い、提案してまいりたいと思います。